



交通崩壊危機から 1 年！
実態を大検証！

■2020年9月号のかわら版にてJR西日本が公表している通過人員を基に「最悪のケース」を想定した。あれから1年以上が経過し緊急事態宣言の解除やワクチンの普及などにより徐々に回復の兆しも見られるがJR各社でも2年連続の赤字計上の見通しが濃厚となっており厳しい状態が続いている。では、実際のところどの程度の影響があったのかを今号では見てみたい。

■早速ではあるが、下図は「数字で見るJR西日本」より岡山近辺のJR路線の通過人員をコロナ前の2018年とコロナ禍の2020年を比較したものである。昨年の時点では「2割程度の減少」と予想したが、実際には半減以上の区間もあり極めて厳しい状況であることがよく分か

通過人員比較表				
線名	区間	2018年	2020年	減少率
姫新線	新見～姫路	1545	1199	-22.4%
	上月～津山	391	346	-11.5%
	津山～中国勝山	813	663	-18.5%
	中国勝山～新見	310	132	-57.4%
山陽本線	岡山～福山	36641	26905	-26.6%
赤穂線	相生～東岡山	5798	4555	-21.4%
	相生～播州赤穂	9477	7066	-25.4%
	播州赤穂～長船	2204	1677	-23.9%
	長船～東岡山	10810	8871	-17.9%
津山線	津山～岡山	3557	2626	-26.2%
吉備線	岡山～総社	5963	4743	-20.5%
宇野線	岡山～宇野	21224	13454	-36.6%
伯備線	倉敷～伯耆大山	5438	2910	-46.5%
	倉敷～備中高梁	10502	6786	-35.4%
	備中高梁～新見	4464	2098	-53.0%
	新見～伯耆大山	3512	1463	-58.3%

る。特に落ち込みが激しいのが定期的の特急列車の運休が相次いだ伯備線で、備中高梁より北側では50%を超えており、国鉄時代にバス転換への基準となった「4000人/日」すらも下回っている。JRの特急列車(及び新幹線)がいかに収益を生み出し、それらによってローカル輸送が支えられていたかがよく分かる。県内旅行の再開も行われているが、経済の回復としては不十分である。一刻も早く長距離移動の回復が進まなければネットワークが総崩れになることが懸念される。

■運行本数についても岡山地区では減便が大きな話題となった。日中では赤穂線と山陽本線の一部区間で区間短縮が行われ「交通機関として最低限の利便性」とも言える30分に1本を下回る区間が拡大した。これについては今年の1月頃に沿線の各市町村がJRに申し入れを行う事態にまで発展している。その他、山陽本線でも「サンライナー」を中心に減便が実施され、交通機関としての優位性が失われつつある。

■その後も2021年10月にもさらなる減便が「聖域なし」に実施され、来年の春にも同様に列車本数の削減が予想されている。中国山地を通る芸備線では路線廃止も囁かれるようになってきた。ただし実際のところ輸送密度が2桁、1桁とバスでも採算が取れないような区間が存在するのも事実であり、地域の実態に合わせた輸送機関が必要なところもあろう。ただし、今後懸念すべきこととしては「公共交通が使いにくくなっても車があるから何も変わらない」という地域内での「油断」だ。確かに免許を持つ人には影響がないかも知れないが、そのしわ寄せは車が運転できない交通弱者に寄せられる。常に渋滞や事故の懸念がある地域が本当に住みやすい地域かという疑問が残る。

■また、岡山近郊のバス路線でも犬島へ向かう宝伝線が来年春で廃止と表明された。デマンド交通やスクールバス等で地域の足確保が検討されるが、休日の岡山駅直行便だけで観光客の足は確保出来ない。西大寺からの宝伝線の平日便が無ければ、西大寺地区の地盤沈下や犬島への来訪客の減少が懸念される。公共交通は観光客の足としても活用でき、それは地域の経済を支える源にもなるのである。福武財団の事業報告書によると瀬戸芸のない2018年でも犬島精練所美術館への来訪者数は1日あたり64名で、1台のバスで捌ききれない。2021年秋～2022年春以降はコロナ禍からの回復を目指して動くべきであるが、こと公共交通においては急速に減便と縮小が続いており時代に取り残されつつある。

■残念ながら昨年秋の段階で「最悪」としていたケースについては予想以上に深刻な「現実」となりつつある。ただし、事業者側のデータを見ると事業者努力だけでは限界があるのもまた事実だ。当然ながら要望書を出すだけで地域の暮らしが守られるほど簡単な問題ではない。市民がどのような暮らしを望んでおり、どんな地域であれば未来に残すことが出来るのか。行政側の「知恵」とそれに伴う「実行力」を出すことが求められる。交通に限らず、目の前の課題と真剣に向き合うことなしに解決などあり得ないからである。

NPO 法人公共の交通ラクダ(RACDA)

事務局 〒700-0823 岡山市北区丸の内 1-1-15 禁酒会館 3F TEL&FAX 086-232-5502

E-mail:info@racda-okayama.org

URL:http://www.racda-okayama.org

RACDA

検索

